

最優秀賞(臨床工学技士部門) 湯口明日菜

わたしたちの仕事

わたしがある日、MEセンター(医療機器管理センター)に立ち寄ったときのことである。先輩が保育器を磨いていた。とても丁寧で、一生懸命で、どこか嬉しそうであった。「とても丁寧に磨いていますね」とわたしが言うと、先輩はこう答えた。「汚い保育器に自分の子供をいれられる? NICU(新生児集中治療室)で保育器に入る赤ちゃんやその家族は、ただでさえ不安でいっぱいなのに、保育器がもし汚かったらもっと不安に思うでしょ。」

臨床工学技士は人と機械をつなぐ仕事をしている。院内にはたくさん機械がある。その機械ひとつひとつに目を向けられるのはわたしたちだけであると思う。わたしたちが機械をきれいに、そして安全な状態に保ち、そしてその機械を看護師や医師が正しく、きれいに扱う。そうやって、わたしたちが人と機械の仲介役をしていけば、患者様の空間はずっと安心できる環境になる。患者様の

まわりには日々、たくさん機械があふれている。だからこそ、その機械を使用する患者様のことを想像しながら、機械ひとつひとつに丁寧に気を配らなければならぬと思う。

医療従事者として、なによりも大切にしなければならぬものは、患者様や患者様のご家族の笑顔や安心だ。どんなときも、患者様の目線にたち、気持ちに寄り添うことが大切である。そんなことを改めて実感させてもらった瞬間であった。

その後、わたしは先輩とともに保育器を磨いた。とても温かい気持ちになった。きれいに磨かれた保育器を見て、なんだか嬉しかった。

